



リンドウ褐斑病の伝染源は前年の罹病残さである

【 1 成果概要】

リンドウ褐斑病は葉に灰白色の斑点を生じ、初発生後の薬剤防除ではその後のまん延を防止することが困難な病害です。今回、病原菌の第一次伝染源や感染条件等から、本病の発生生態の全ぼうを明らかにしました。

病原菌は、新種の糸状菌（カビ）の *Mycochaetophora gentianae* です。

第一次伝染源は前年罹病残さです。

罹病残さおよび罹病葉上には筍（ほうき）状の胞子体をつくります。これから、雨滴とともに胞子（分生子）が分散します。

病原菌が感染するためには、24 時間を超える長時間の葉面濡れを必要とします。感染温度は 15～25 です。

罹病残さの除去だけでは防除することは困難であるため、防除適期（6 月下旬～7 月下旬）における薬剤防除を徹底し、本病の伝染環を絶ちます。

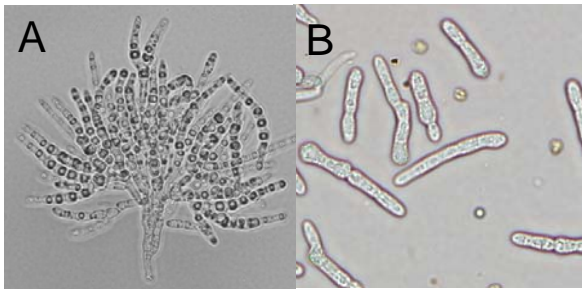


図 1 病原菌の胞子体 (A) と分生子 (B)
病斑上に胞子体が形成される。この胞子体から分生子が雨滴に分散する。

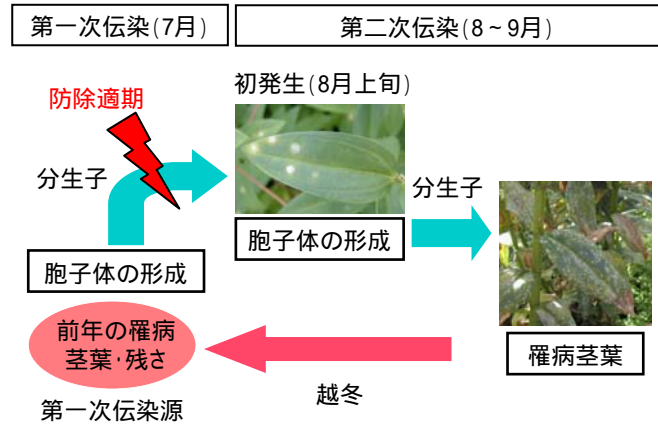


図 2 リンドウ褐斑病の伝染環と防除適期

【 2 効果】

本病の発生生態に基づき的確な防除指導ができます。

【 3 留意事項】

- (1) 防除対策は、防除適期（6 月下旬～7 月下旬）の薬剤散布が最も効果的です。
- (2) 感染条件の温度と葉面濡れ期間の関係は、実験室内での検討結果です。圃場では、2 日間連続する降雨の回数が多いほど感染量が多くなる傾向です。

【 4 適応対象】

- 1 地帯 県内全域
- 2 対象者 普及センター等の営農指導者

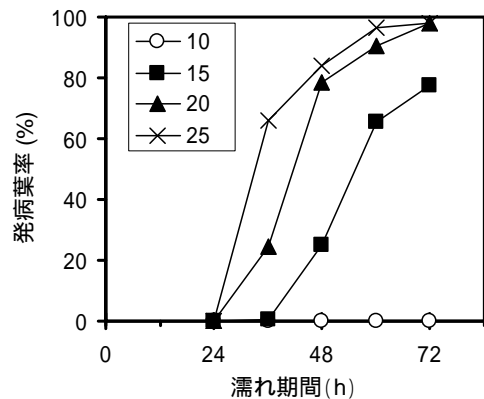


図 3 褐斑病菌の感染に対する温度と葉面濡れ時間の影響

葉面の濡れが 36 時間以上持続してはじめて感染することができる（一般的な植物病原菌に比べて非常に長い）。感染温度範囲は 15～25 である。